



多彩なゲストが花を添える 南伊豆のコマセダイ上昇!!

今年の初釣りは1月8日、南伊豆下田須崎港の大黒屋へ。思えば30数年前、初めてのマ



▲このところのポイントは港から航程10分ほどの近場が中心
▼大ダイに備えてドラグ調節は万全に

ダイ釣りでは3キロを釣らしてもらった験のいい船でもある。下田エリアでは年末からマダイがいつになく好調で、大黒屋でも27日は2.8キロ頭にトップ3枚、28日は3.4キロ頭に3枚、29日は2.6キロ頭に3枚。そして年明け6日は2.2キロ



頭に8枚で10時半に早揚がりという入れ食い状態。これはいい初釣りになりそうな予感がする。

早朝の荒食い!?

6時の集合時間には4人のお客さんが集まり、6時半に土屋裕司船長の操船で岸壁を離れる。

空は曇天で北東の風が少しあり、ちよつとウネリもある。ゆつくり走っていた船は、わずかに10分ほどで須崎沖のポイントに到着。投入開始時間まで15分ほど待機することになる。

ここにはほかの船影はなく、周囲を見渡すと、田牛沖に僚船が3〜4隻固まっているのが確認できる。どうやらあちらはワラサを中心に狙っているらしい。

7時に釣り開始。指示ダナは60メートル。さっそく右ト

モの常連さんにアタリがくる。

竿はギユンギユンと絞り込まれているが、ドラグを引き出すほどの重量感はないようだ。ほどなく海面に姿を見せたのは1キロ級のマダイ。

1投目からの本命登場に船内は盛り上がる。続いて再び右トモにアタリがくるが、ヤリトリの最中にラインからテンションが消える。

そして、右胴の間の竿が絞り込まれるが、これもバラシに終わる。このファイト中に左トモでもアタリがきた。

引きはかなり強烈で、ドラグをジージー鳴らして道糸を引き出すところを見ると、マダイではなくワラサのようだ。

それでも10分近くかけてようやく手元に寄せたが、道糸をつかんでテンピンを手にした瞬間、フツと重さが消える。

ハリスをたぐるとチモトの部分でプツリ。取り込み態勢に入ったときにテンションが緩んでハリが外れるケースはよくあるが、切れることは稀だ。

もつとも、あまり大きな群れではないようで、最盛期のように入れ掛かりは望めない。

とはいえ、古くからのマダイ釣り場でもあるから、実際は両狙いのスタイルになる。

再開後、すぐに左トモでアタリがあり、1キロ級のマハタが上がる。ちょうど根魚好みの場所だったのか、一回り小ぶりのマハタやアオハタが船中でバタバタと3尾取り込

まれる。

その後はしばらく沈黙したもの、40分後に右胴の間にアタリ。引きからするとワラサのようだ。ファイトの最中、お隣のトモにもヒット。

胴の間で取り込まれたのは2.5キロ級。トモではよく太った3.7キロが上がる。いずれにせよ、マダイ用の道具と仕掛けだから、少々手こずるのは仕方がない。

終了の15分前、左トモにアタリ。難なく上がってきたのは1キロ級のスマ。これを最後に午後1時、沖揚がりとなる。

釣果は11キロのマダイが船中1枚にワラサが2本。ほかにメイチダイ、イサキ、ハタなどが交じった。



土屋 裕司船長

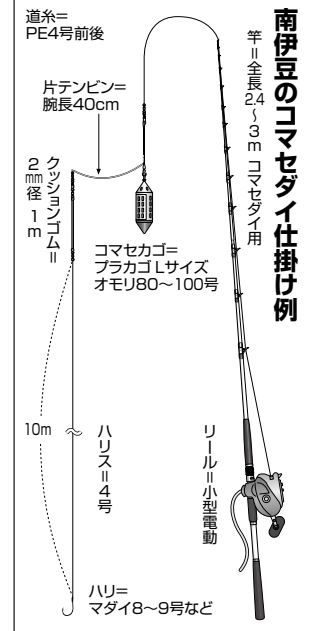
この時期は卵と白子に栄養を取られるため、身だけに限れば厳寒期の現在が脂も乗って一番美味とされる。このチャンスに、乗っ込み前の居着きマダイを狙ってみてはいいかがだろうか。

▼根周りではマハタも上がった



・Tackle Guide

道具、仕掛けとも一般的なコマセダイ用でかまわない。ただし、ワラサの回遊や日によっては5キロオーバーの大ダイも上がっているため、4号より細いハリスは使わないほうが賢明だろう。



ワラサにマハタも

向かうは僚船が朝から流していた田牛沖。秋、白浜沖で釣れていたワラサの居残り組なのかもしれないが、現在はここがワラサポイントになっている。

▼太ったワラサは脂の乗りも上々



翌日は2.2キロを頭に1人で5枚のマダイが上がっているから、当日はたまたま谷間に当たってしまったの

船宿 information

南伊豆下田須崎港

大黒屋

☎0558-22-1970 (詳細は巻末の情報欄参照)

- ▶料金=マダイ乗合一人1万3000円 (付けエサ、コマセ、氷付き)
- ▶備考=予約乗合、6時集合。ほかイサキ、カサゴなどへも出船

知得! 値千金のゲスト

当日の釣りを締めくくってくれたのがスマ。スズキ目サバ科スマ属の魚で、見ても分かるようにマグロ、カツオ類の仲間。胸ビレの下にある黒い斑点がお灸の跡に見えることからヤイトもしくはヤイトカツオとも呼ばれる。また、この斑点が渡辺家の家紋に似ていることから、房総方面ではワタナベとの呼び名も。大きな群れを作らないため、市場に出回することは少ない。マグロ類では小型だが、その身は全身トロといわれるほど脂が乗り、カツオのようなクセもなく絶品。狙って釣れる魚ではないが、下田エリアでは3キロ級を頭に連日船中1〜2本程度上がっているから、運がよければお目にかかれるかもしれない。



▲2月もスマが釣れ続くことを期待しよう

無理なヤリトリではなかったし、急に強く引き込まれたわけでもない。結局、この3連続バラシの原因は、姿こそ確認できなかったものの、サメの仕業という結論に至る。その後はバタリとアタリが遠のき、辛抱の時間が過ぎる。サメの影響かと思いきや、